

自己評価・学校関係者評価表（令和5年度）

岸和田いずみ幼稚園

1、本園の教育目標

心身共に健康な子どもを育てる
<ul style="list-style-type: none">・ 自分の思いや考えが表現できる子ども・ 友達と仲良く遊べる子ども・ 根気よく頑張る子ども・ 相手を思いやるやさしい子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

<ul style="list-style-type: none">・ 指導計画が教育要領や教育理念、子どもの実態に即しているかを把握し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高める。・ 社会のニーズを意識し、確認していくことで、幼稚園が今後求められている役割を明確にしていく。

3、評価項目の達成及び取組状況

教育項目	評価	取組状況
相手の気持ちを理解したり、友達への思いやりをもつことで社会生活の基礎を作る。	A	<ul style="list-style-type: none">・ かるたや鬼ごっこ等の遊びをしながら、ルールを守ると楽しく遊べることに気づいた。また勝敗のある遊びを通し、楽しい気持ちや悔しい気持ちなどを体験し、次への意欲を持つことや気持ちを切り替える大切さを学んだ。・ 友達と喧嘩やトラブルになった時には、まず教師が起こった事実を、両者や周囲の子どもに確認し原因を把握した。子ども達にお互いの思いを伝え、相手の気持ちを理解する場面を提供した。また子ども同士で自主的に解決する方法を考える力が育った。
スクールバスにおける、置き去り防止措置を講じた。	A	<ul style="list-style-type: none">・ 国土交通省策定の「送迎用バスの置き去り防止の安全装置」の購入を全てのスクールバス4台に実施した。園児全員に防止装置の使用方法を指導し、また定期的に使い方を確認してきた。・ 園独自の置き去り防止策として防犯ブザーを併用しており、園児に活用方法を指導した。・ ICTを活用した子ども見守りサービスなどの安全対策の機器を活用し、担任が主となり毎日の出欠確認を徹底してきた。無断で欠席している園児の保護者には必ず連絡をとり、園児の所在を確認した
預かり保育室の環境を整えた。	A	<ul style="list-style-type: none">・ 預かり保育室とプレイルームの兼用の保育室が令和5年12月に竣工した。預かり保育の専用棟が完成したことにより、今まで兼用していた年少棟の保育室や、道具の管理が行き届くようになった。・ 大型のソフト積み木や、色鉛筆や紙などの絵画道具、絵本やボールプール等、遊びの環境や、物品を整理する環境が充実した。・ プロジェクター等の視聴覚備品が整備され、多目的室として、活用できる環境が整った。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

アフターコロナを迎え、相手との距離をあまり意識せずに子ども達が活動できる時間が増えてきた。

竣工されたプレイルームでは、ままごと・ボールプール・ブロック・絵本などのおもちゃを整え、コーナーに分かれて遊べる環境が整った。これにより、集中して遊んだり、自らやりたい遊びを見つけて遊ぶ自主性が高まった。また、各クラスや年齢を超えた交流が増えたので、小さい相手を思いやったり、大きい子どもの遊びを手本にして遊ぶ姿が増えた。

新任の教師と、それを指導する中堅の教師が、相互の保育の指導力をあげながら、良好な人間関係を保つ方法を考えていく必要がある。さらには、相互に情報の確認や、意志の疎通を図る意識や、危機管理意識を高く持つ大切さに気付く姿勢を身に付ける努力が必要となってきた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
新任の教師や中堅・ベテランの教師が、保育の指導力をあげる要因ともなるように、お互いの良好な人間関係を築く工夫や方法を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢において、教師同士のミーティングの機会を持つようにしていく。 ・困っていることや疑問点などが質問しやすい環境を整える ・同僚と共感できる場面を持ち、孤立させない ・日常での保育や、それ以外でも教職員で相互の声掛けを充実していく。教職員は、同学年だけではなく、他学年にも広く情報の共有を行い、保育を行う安心感を育てる。
少子化により、園児数の減少が見られるが、これに伴い、満3歳児の全体に占める割合が増加している。満3歳児の教員の配置を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児は3歳を迎えた次の月の始めに入園してくる。この時期は、園に慣れるまで常に何人かが泣いたり、不安を抱えているので保育者の密接な対応が必要である。クラスの人数が始めは少人数であるが、月を経るごとに園児の数が増加していくので、そのタイミングで適切な教員配置を考えていかねばならない。
幼稚園と小学校の接続がスムーズに行われるための保育目標を理解し確認していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を目標として保育を行っている。これが到達目標ではなく、さらにその先を見通す保育の目標を、小学校とも関わりながら、考えていく。 ・子ども達が持つ小学校のイメージを明確化していく。入学に当たり安心なこと・心配なこと・不安なことを年長児に聞き取り、子どもの思いに気づく。

6、学校関係者の評価

特に指導すべきことはなく、妥当であると認められる

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。